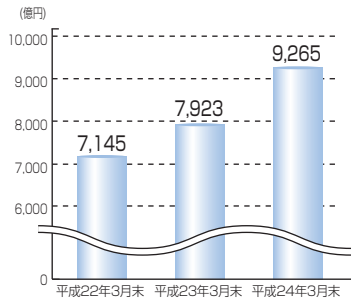


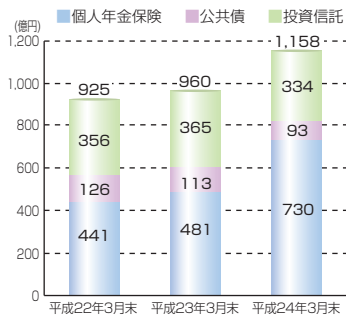
2012年3月期決算ハイライト (単体)

預金残高推移



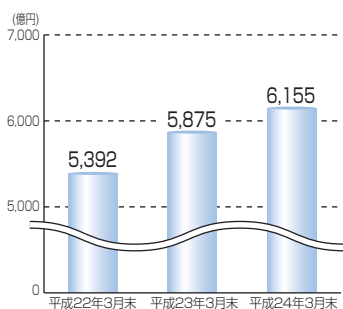
小口で安定した資金の確保を目指し、個人のお客さまを中心に預金の増強を図ってまいりました。「アクト定期」「巖流定期」や「ウェブ一丁目支店1周年記念キャンペーン」が大変ご好評いただき、預金残高は前期比1,342億円増加し、9,265億円となりました。

預り資産残高推移



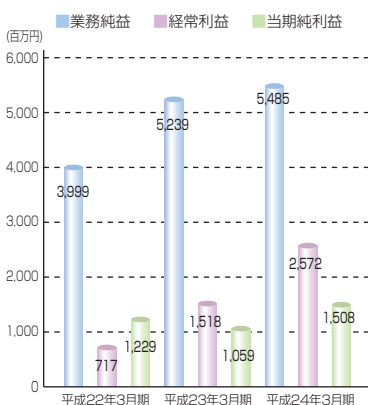
地域のお客さまの多様化する資産運用ニーズにお応えするため、県内外12ヶ所にマネープラザを開設し、専門スタッフがきめ細かくお応えすることで、預り資産残高は前期比198億円増加し1,158億円となりました。また、預金との合計金額は目標であった1兆円を突破し、1兆423億円となりました。

貸出金残高推移



個人のお客さまには住宅ローンや消費者ローンを中心に取り組み、事業性貸出については中小企業向け貸出等に注力した結果、貸出金残高は前期比279億円増加し、6,155億円となりました。

業務純益・経常利益・当期純利益の推移

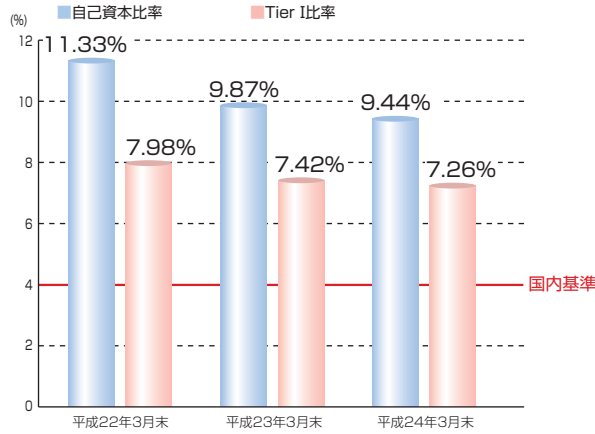


預貸金収支の改善等に努めた結果、業務純益は前期比2億円増加して54億円となりました。経常利益は前期比10億円増加して25億円、当期純利益は前期比4億円増加し、15億円となりました。

用語解説

- ①業務純益…銀行の本来業務の成果を示す利益指標です。
- ②経常利益…業務純益に貸出金償却や株式の売買損益などの臨時損益を加減算したものです。
- ③当期純利益…経常利益に特別損益と税金を加減算したものです。

自己資本比率

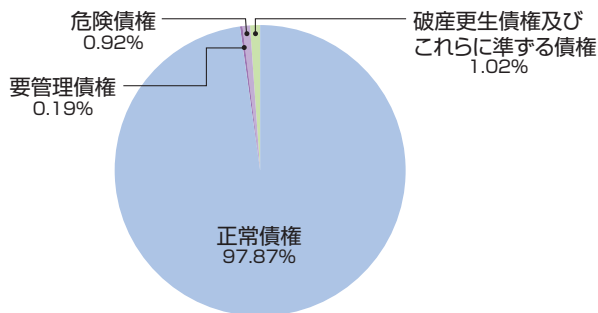


自己資本比率は、9.44%と国内基準で必要とされる4%を大きく上回っております。また、自己資本のうち資本金、資本準備金、利益剰余金などで構成されるTier I比率は、7.26%となりました。

用語解説

自己資本比率は、貸出金などの資産に対する自己資本の割合で、銀行経営の健全性を示す重要な指標の一つです。当行のように海外に拠点のない銀行は、国内基準が適用され4%以上が健全な銀行の水準とされています。

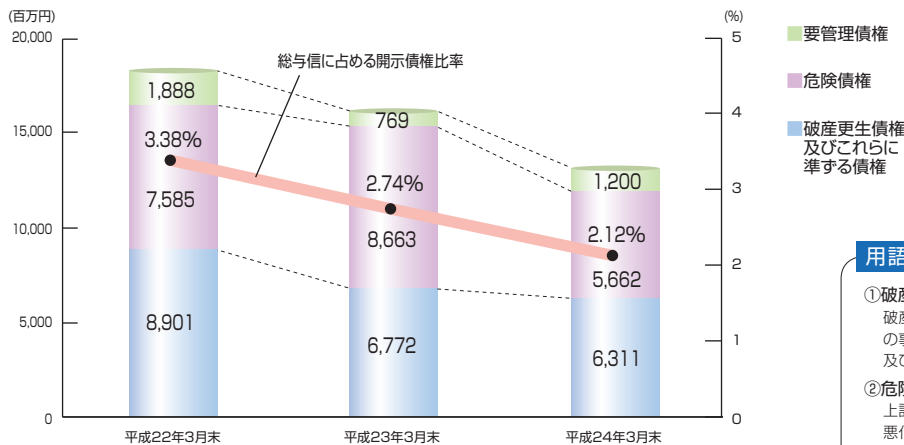
金融再生法に基づく開示債権



(単位：百万円)

	H24年3月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	6,311
危険債権	5,662
要管理債権	1,200
小計 (A)	13,175
正常債権	605,507
合計 (B)	618,682
開示債権比率 (A) / (B)	2.12%

開示債権額と総与信に占める開示債権比率の推移



用語解説

①破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

②危険債権

上記の状態には至っていないが財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性が高い債権。

③要管理債権

上記を除く3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。